

# 行政研究所

## ガイドブック

入室試験から公務員試験合格・内定まで

国家総合職・一般職、地方上級等  
各種公務員採用試験対応



2021年度版

Gateway to Public Service

## 行研へのいざない ～「縁の下の力持ち」の矜持～

国家試験指導センター行政研究所  
所長 西川 伸一  
(政治経済学部教授)

「縁の下の力持ち」という言葉があります。国語辞典を引くと「他人のために陰で苦勞、努力をすること、また、そのような人のたとえ」と出てきます(『デジタル大辞泉』)。「縁の下」と聞いても、マンションなどそれがない家も多いためイメージがわからないかもしれません。「縁側の下。また、床下。」(『同』)のことです。アニメの「サザエさん」をみてください。猫のタマがよく縁の下に隠れています。

ふつうにできて当たり前、できなければここぞとばかりに叩かれる。公務員とはそういう存在です。はなばなしく顕彰されることはまずありません。一方で、何かミスがあれば「税金で食べてるくせに」とすぐに言われてしまいます。定番の批判と常に隣り合わせになりながら、多くの公務員は「世の中に貢献したい」と市民のために地味な仕事を着実にこなしています。

さて、コロナ禍にあって「エッセンシャルワーカー」ということばが知られるようになりました。「私たちの日常生活における、必要不可欠な仕事(エッセンシャルサービス)を担う労働者」のことを指します。公務員はまさにエッセンシャルワーカーです。コロナ対応で、医療従事者と市民をつなぐのは彼ら公務員です。「緊急事態宣言」に伴う損失補償も彼らが立案し、最前線でその業務を担うのです。彼らがいなければウィズコロナの社会は回りません。公務員とはエッセンシャルワーカーにして社会の「縁の下の力持ち」なのです。

手柄を自慢するのではなく、「人知れず微笑まん」をプライドにする公務員という職業を私は尊敬しています。こうした公務員の仕事に魅力を感じる学生は、ぜひ私たち行政研究所(略称・行研ぎょうけん)の門を叩いてください。行研は公務員試験合格を目指す学生たちに、勉強する場所とプロ講師による充実した授業を提供しています。そこには、同じ志を持つ多くの仲間が集ります。とりわけ、みなさんに挑戦してほしいのは、最難関の国家公務員採用総合職試験です。よく耳にする「キャリア官僚」とは、この試験に合格して採用された国家公務員をさします。国の行政の中枢に多くの明治大学出身者が入ることで、この国はもっとよくなると私は確信してやみません。

「叩けよさらば開かれん」です。すぐに行動を起こして、行研であなたの近未来を具体的に設計してみませんか。

2021年4月1日

# 行政研究所の歴史と目的

## 公務員を志す明大生のために

行政研究所は、1957年（昭和32年）故弓家七郎名誉教授（当時政治経済学部長）により明治大学行政研究指導室として設立されました。当時の目的は、「国家公務員上級試験および地方公務員を目指す特別研究生に対する指導を行い、併せて母校明治大学の学風振興に寄与しようとする」とであり、初代特別研究生は約10名でした。それ以後、時代を経るとともに組織は様々に変化しながら、その設立以来、多くの有為な人材を輩出してきました。

設立から50年経った2007年（平成19年）に、大学に新たに設置された国家試験指導センターの傘下に位置づけ直され、現在に至っています。現在では、目標を「一人でも多くの国家公務員採用総合職試験最終合格者を輩出すること」としています。

現在、公務員は学生に根強い人気がある職種の1つです。そして、公務員になるためには「公務員試験」を突破する必要があります。しかしながら、この「公務員試験」は大学入学試験以上の範囲と知識量を求められるものです。すなわち、ただがむしゃらに勉強しているだけでは合格することが難しい試験と言わざるを得ません。そのような「公務員試験」の対策として、民間予備校、独学、あるいは大学が設置している対策講座などの手段が考えられます。しかし、いずれにおいても費用や情報量、精神的サポートなど、学生にとっての不安要素は尽きません。

行政研究所は、「公務員を志す明大生のための明治大学の組織」です。皆さんが社会にとって有為な“良き公務員”として成長できるように、学業面に限らずあらゆる面で最大限のサポートをすることをお約束します。



和泉分室のある和泉リエゾン棟



駿河台本室のある猿楽町校舎

# 行政研究所のここがすごい！

## 1. 格安の費用

(消費税込み)

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
行政研究所	6.6万円	6.6万円	13.2万円	6.6万円	33万円 <sup>(※1)</sup>
民間予備校		52万円 <sup>(※2)</sup>			52万円

※1：4年間に在籍した場合の受講料及び入室利用料の合計

※2：一般的といわれている2年コースの割引後価格

行政研究所と民間予備校の受講料を比較すると上表のようになります。このように行政研究所では、民間予備校に比べて格安の受講料で講座を受講できます。

## 2. 手厚いサポート体制

行政研究所の講師陣は、各予備校のトップ講師によって構成されています。また、講義以外の論文添削や面接対策などの受験指導に追加料金がかかりません。さらに、OB・OGである先輩職員による実践的な面接指導が受けられるというメリットがあります。これらの点は、予備校との最大の違いであると同時に、最高のサポートと言えるでしょう。

## 3. 仲間の存在

行政研究所には同じ目標を持つ仲間がいます。また、夢を叶え、第一線で活躍している卒業生が多数います。かつて同じ立場であったOB・OGは面接指導など様々な場面でよき相談相手になってくれます。仲間や先輩の存在は、公務員試験を個人戦で戦う民間予備校とは異なり、とても心強い存在と言えます。

## 4. 専用自習室がある！

和泉キャンパスには自習室と共用ゼミ室が、駿河台キャンパスには原則、各研究生に専用の自習机とロッカーが用意されています。これにより普段から快適な環境で集中して勉強することができます。また、和泉キャンパスでは学内Wi-Fiを利用できるため、試験や説明会等の様々な情報を調べることも可能です。

## 5. 受験専門雑誌や参考図書を利用できる！

公務員試験の勉強時に用いる教科書や参考書が事務室に用意されており、自由に利用することができます(貸出制)。通常、教科書や参考書と呼ばれる基本書の多くは高価なため、勉強面のみならず、費用面でもメリットといえます。

## 6. 先輩から情報を教えてもらえる！

タテの繋がりは行政研究所の強みです。毎年秋には、就職の決まった4年生による講演会や追い出しコンパなど様々なイベントが開催され、それらを通じて先輩と関わるすることができます。また、OB・OGが非常に熱心に後輩指導をしてくれます。公務員試験は情報戦の側面もあり、OB・OGから多くの情報を得られることは大きなメリットになります。

## 7. 成績優秀者に対して奨学奨励金が支給される！

行政研究所では、1・2年生を対象とした模擬試験が毎年冬に実施されています。1年間の学習の目標や理解度チェックの材料として模擬試験は有効です。この試験で優秀な成績を取った研究生に対しては奨学奨励金が支給されます。

## 8. 国家総合職試験最終合格者には報奨金が授与される！

行政研究所の目標は、国家総合職試験の最終合格となっています。この国家総合職試験に1次合格および最終合格した研究生には報奨金が授与されます。倍率も難易度も高い試験ですが、研究生になったら、ぜひ国家総合職試験の最終合格を目指してください。

# 主な年間行事

	入室試験	研究生となるための第一歩です
春学期	春学期総会 OB・OGによる講演会、懇親会	合宿などのイベントや公務員試験の説明をします 研究生の希望職種の先輩達の話聞けます
	夏合宿 面接対策(2年生対象)	明治大学の施設で合宿を行います 夏合宿では、講師による面接対策を行います
	OB・OG 総会(隔年)	様々な職種の先輩に会える機会です
秋学期	秋学期総会 4年生による合格体験報告、懇親会	新幹部を決定します 進路の決まった4年生の話聞く講演会です
	模擬試験(1・2年生対象)	4年生作成の模擬試験です 成績優秀者には奨学奨励金の支給があります
	政策研究ゼミ	国家総合職志望者向けの政策討論会です
	卒業追い出しコンパ	4年生はこの行事をもって行政研究所卒業となります
	試験直前対策(3年生)	講義や論文指導、面接対策を随時行います

※その他、学年ごとの懇親会や過去問を用いた自主模擬試験など、研究生自らが計画するイベントもあります。

行政研究所には、年間を通して様々なイベントがあります。このようなイベントを多く用意している最大の目的は、タテの繋がりとヨコの繋がりを深めることです。公務員試験を乗り切る上で、互いに刺激し合い、協力できる仲間が必要不可欠です。そのため、これらのイベントで多くの友人を作ることが、合格に近づく一歩であるといえます。また、各人で話し合い、新たなイベントを作ることも可能です。



政策研究ゼミ



追いコン

# カリキュラム

例. 2019年度のカリキュラム

	月	火	水	木	金	土
1年生 ・ 2年生	17:30~20:30 経済学 (ミクロ・マクロ)	17:30~20:30 憲法 (春学期) 民法 (秋学期)	17:30~20:30 行政法 (通年)	17:30~20:30 政治学 (秋学期)	17:30~20:30 数的処理 (通年)	
3年生	17:30~20:30 法律系科目 (共通)	17:30~20:30 経済系科目 (共通)	17:30~20:30 法律系科目 (共通)	17:30~20:30 数的処理 文章理解 教養論文 (共通)	17:30~20:30 行政系科目 (共通)	13:00~17:30 経済系科目 法律系科目 行政系科目 (国家総合職)

※経済系科目：経済学・財政学・経済事情など  
 法律系科目：憲法・民法・行政法など  
 行政系科目：政治学・行政学・社会学・国際関係など  
 共 通：国家総合職、一般職、地方上級共通科目

和泉キャンパスでは、1・2年生の合同講義となっています。これは、1・2年次から余裕を持たせた勉強を行なうことに加えて、それ以外の時間でいわゆる面接試験の“ネタ”になるような経験もしてほしいという配慮からです。一般的に受験生は面接における“ネタ作り”に苦労することが多いです。そのとき、1・2年次に経験をしたアルバイトやボランティア、サークル活動などの話が重要となってきます。そのため、例えば、1年次は月曜日と金曜日の週2日、2年次は火曜日と水曜日と木曜日の週3日という講義の受け方をすることで課外活動に取り組む時間が生まれ、1・2年次から様々な経験を積めるようにできています。

駿河台キャンパスでは、週5日程度の授業が行われています。また、カリキュラム例にある科目に加え、刑法や労働法などのいわゆる「マイナー科目」や、人文科学系科目などの講義も順次開講され、自分の志望する試験に合わせた講義を受講することができます。さらに、試験が近づいてくると、個人の要望にあわせた面接対策や論文指導も行われるなど、充実したカリキュラムとなっています。

## 講師陣からのメッセージ(五十音順)

### ★加藤耕一先生(法律系科目担当)

求められる人になろうと努力する学生への協力は惜しみません。行政研究所の講師は、各試験に合わせた講義だけでなく、面接に必要な話す力・聞く力を身につけられるように指導することのできる頼りになる方々です。明大生であることを大いに活用して下さい。

### ★近裕一先生(行政系科目担当)

行政系科目では、政治、行政、国際関係、社会一般について、幅広い知識を学んでいきます。学習を進めるほどに知識が相互に結びつき、面白さが分かってきますので、これから一緒に頑張ってください。

### ★関野喬先生(教養科目担当)

数的処理は算数とパズルを合わせた科目で教養試験の要諦です。「数」と聞き拒否反応を示した人も大丈夫。基礎から丁寧にやります。本当の意味での教養の話もできたらと思います。一緒に頑張りましょう。

### ★平野真武先生(経済系科目担当)

現在の日本は、多くの問題を抱えています。問題を解決し、より良い社会を作り出していくことは大変なことです。大きなやりがいがあります。社会に対する興味と熱い思いを持った学生が、行政研究所に来ることを期待しています。

### ★渡辺一郎先生(法律系科目担当)

格差のない豊かな日本、安全・安心な日本を築くという理想を実現するためには、法律案等を作成し、趣旨説明ができなければなりません。行研では、試験を確実に突破できる実力養成が目的ですが、日本を担う人材育成も目指します。一緒に、がんばりましょう！

行政研究所の講師は、各予備校のオールスターが揃っています。親身になって指導にあたる講師ばかりなので、合格の可能性を数段引き上げてくれる心強い存在となっています。

この他にも、文章理解、人文科学、教養論文、専門経済系科目、専門法律系科目などの講義を担当している数々の講師がいます。少ない時間ながらも丁寧かつ熱心に教えてくれています。行政研究所の研究生は、このような素晴らしい講師のもとで、最大限の力を発揮することができます。

# 合格実績

過去10年間の行政研究所の合格実績と在籍者数は以下の通りとなっています。

単位：人

職種 合格年度	国家総合職 (旧I種)	国家一般職 (旧II種)	地方上級	市役所	その他	合計
2011年度 59名在籍	4	10	30	13	29	86
2012年度 57名在籍	7	4	30	11	10	62
2013年度 50名在籍	5	5	24	8	10	52
2014年度 55名在籍	10	8	37	5	11	71
2015年度 63名在籍	8	16	45	4	11	83
2016年度 53名在籍	8	21	39	3	20	91
2017年度 65名在籍	8	8	39	6	14	75
2018年度 83名在籍	12	21	60	9	31	133
2019年度 52名在籍	7	18	33	2	29	89
2020年度 56名在籍	8	18	30	5	17	78

※合格者数は延べ人数

この表に記載している以外にも、昨年は生田キャンパスの技術系公務員講座受講生2名が国家公務員総合職に合格しています。

進路は、国家公務員総合職、国家公務員一般職、都道府県庁、市区町村、国税専門官などへの就職に加え、民間就職や公共政策大学院への進学など様々です。

公務員試験の受験料は無料なので、多くの試験を併願することも可能です。しかし、そのためには併願可能な試験日程であるかの確認や、試験に合わせた個別の対応が少なからず必要であるので、試験日時・内容についてはしっかりと確認することが大切です。

また、各種試験においては近年の公務員制度改革の流れの中で、試験の評価方法や筆記試験の出題内容など細かい変更が年度ごとに目まぐるしく行われる傾向にあります。したがって、実際に受験する際には各自でしっかりと調べて試験に臨む必要があります。

行政研究所では、必ず公務員試験を受験しなければならないわけではなく、進路を考える途中で民間就職という道を選択する人もいます。先輩の中にも民間企業に就職している方が多数おり、先輩から話を聞いたり、エントリーシートを添削してもらったりすることができる環境にあります。

公務員試験の受験も、民間企業への就職試験においても、志望先について知ることや面接対策を行うことは非常に大切なことです。行政研究所ではこのようなフォローが充実しています。

自分の将来を真剣に考える皆さんが、自分と向き合い、意識の高い仲間と触れ合い、未来をその手に掴む最高の環境が行政研究所です。将来の日本を背負って立つ皆さんの入室をお待ちしています。

# 募集要項

## 1. 受験資格

- ① 本学の学部生
- ② 国家公務員採用総合職試験(法律区分、経済区分、政治・国際区分、教養区分)の合格を第一志望とする者(\*受験資格②は、3年次入室試験受験者に限ります。)

## 2. 募集人数

- 1年生約100名
- 2年生約80名
- 3年生若干名

## 3. 入室試験

時期と会場(1・2年生)	4月中旬・和泉・駿河台キャンパス
(3年生)	2年次の3月下旬・駿河台キャンパス
受験料	1,100円(消費税込み)
試験内容	筆記試験(1次)、面接試験(2次)

## 4. 入室ガイダンス

毎年度4月に、和泉キャンパスで一斉に実施する入室試験に先立ち、ガイダンスを行います。日時等については、Oh-o! Meijiにて配信し、和泉キャンパスに掲示します。

駿河台キャンパスで実施する入室試験は、2月下旬に行政研究所ホームページに掲載し、Oh-o! Meijiにて配信します。

## 5. 受験申込

- 1・2年生 和泉キャンパスでの申し込み会場は、ガイダンスにて発表します。
- 3年生 個別に事務室等で受け付けます。

## 6. 室費(年間)(消費税込み)

1年生(和泉)	在室期間(5月上旬～翌年3月31日)	66,000円
2年生(和泉)	在室期間(5月上旬～翌年3月31日)	66,000円
3年生(駿河台)	在室期間(4月1日～翌年3月31日)	132,000円
4年生(駿河台)	在室期間(4月1日～翌年卒業式)	66,000円

(\*別途、初めて入室する場合は入室登録料として5,100円がかかります。)

※募集人数や室費などについては変更する可能性があります。

各自、最新の情報は、必ず行政研究所のホームページで確認して下さい。

# OB・OGからのメッセージ

藤倉 みなみ *Minami Fuzikura*

埼玉県庁

(55期・2015年3月 法学部法律学科卒業)

## 光をくれた場所

社会人になって早6年。今になっても、行研の仲間と過ごした学生生活がきのうのこのように思い出されます。それだけ充実したものだったと、自信を持って言えます。

まずは自己紹介を。私は大学卒業後、埼玉県庁に就職しました。初めの3年間は、本庁にある総務部人事課で、働きやすい職場づくりに関する業務を担当しました。入庁4年目に地域機関(出先)の福祉事務所に異動して3年間、介護施設の開設等に関する窓口業務や現地調査を担当するとともに、現在は新型コロナウイルス感染症関連の業務として、施設での感染対策や感染症発生時の連絡調整にも従事しています。加えて、これまで自身の所属部署以外の仕事が経験できる機会にも恵まれ、2019年に開催されたラグビーワールドカップの運営補助、中小企業への派遣研修など、様々なことに挑戦しています。

偉そうに仕事のことを書いてしまいましたが、私自身は最初から明確な目標を持っていた学生ではありませんでした。今、このガイドブックをご覧ください。皆さんの中にも、将来のことはまだ漠然と考えている方もいらっしゃるのではないでしょうか。私としては、将来の進路を迷っている方も決して高いハードルを感じることなく、むしろ、そんな方にこそ勇気を出して行研に飛び込んでみてほしいと思っています。

行研では、1、2年生にも公務員試験に向けた講義が行われています。「そんな早い時期から勉強するのか…」と気後れしてしまうかもしれませんが、心配はいりません。自分のペースで少しずつ受講できます。そして、何と言っても講義をしてくださるのは予備校のスター講師!貴重な講義を体感しながら、また、勉強だけでなく、好きなことや学生である今にしかできないことにも取り組みながら、少しずつ将来について考えてみるのも良いのではないでしょうか。

また、行研では、学生が主体となって組織の運営にも携わります。私は、係活動を機に切磋琢磨できる友人が多くできたことで、モチベーションがかなり変わりました。

そして、私が感じる行研の一番の魅力は、先生方、OB・OGや事務の方々のサポート体制です。進路相談や面接対策、勉強方法に迷ったときのお悩み相談もどんな進路を目指す学生にも真摯に向き合ってください。こんなにも親しみやすく、自身の経験や実際の仕事のことを話して下さる先輩方はキラキラしていて、当時の私にとっての光でした。一般の予備校では、きっとこんな経験はできません。

社会人になった今も、同じ勤務先の行研の先輩や後輩とは仕事で関わることもあり、とても心強いです。また、様々な場所で活躍する行研の友人とは今でも仲が良く、一生の宝です。学生時代、行き詰った私の光になってくれた先輩方のように、私も皆さんに寄り添えるようなOGでいたいと思っています。皆さんが行研の扉を叩いてくれて、お話しできる機会があることを楽しみにしています!



福島 新平 *Shinpei Fukushima*

神奈川県庁

(56期・2016年3月 政治経済学部政治学科卒業)

## 行政研究所という環境

皆さん初めまして、行政研究所56期生の福島新平と申します。私は大学卒業後に神奈川県庁に就職し、交通部門に従事した後、現在県立高校で働いています。

私が大学に入学したときには明確に就きたい職業は決まっておらず、人の役に立つような仕事がしたいと漠然と考えていました。その中で行政研究所に入所して公務員を目指してみようかなと考えたのは、ガイダンスに参加し、このパンフレットを読んだことがきっかけでした。

行政研究所は設立されてから長い年月が経ちますが、その中で培われてきた縦、横の繋がりが非常に強いです。面接対策では10年以上も年上の現場で働いていらっしゃるOB、OGの方々に面接指導を直接行って頂いたり、同期の仲間と切磋琢磨して勉強、相談できる環境が整っています。

公務員試験をはじめとした就職活動というのは、なかなか一人で乗り切れるものではありません。就活というまだ経験のしたことのないイベントに挑む際に同じビジョンを持っている仲間や先生方、そして先輩方に相談できる環境というのは、非常に重要です。

大学生活というのは非常に楽しいです。しかしその反面、ただ何もしないで過ごしてしまう可能性もあります。その大学生活の是非を決めるのは皆さん次第なのです。

そこで行政研究所という環境を私は提案したいと思います。この環境は本当に素晴らしいものだったと、今になってひしひしと感じています。大学生活と公務員試験の両立は、そんなに簡単なものではありません。しかし仲間や先生方が応援してくれる環境にいれば、自分は1人じゃないと感じることができます。

ここまで行政研究所のことを簡単に書いてみましたが、行政研究所に入ったからといって必ず公務員を目指さないといけないわけではありません。実際に私の友人は民間企業に就職しましたし、私自身も民間企業を受けました。ただ、昨今の情勢で公務員として求められる資質というのは以前とは確実に変わっていくし、必要性というのは高まっていくのではないかと感じています。

ここまで読んでガイダンスに出席していただいて、もし少しでも興味を持たれたら、是非入室試験を受けてみませんか?もし行政研究所を選択していただいたら嬉しいです。卒業生として全力でバックアップしていきたいと思っています。いつか皆さんとお話しする日を楽しみにお待ちしております。



# OB・OGからのメッセージ

増渕 有紀 Yuki Masubuchi

武蔵野市役所

(60期・2020年3月 文学部文学科卒業)

## 未来へ向けて、一步チャレンジ!

みなさん、はじめまして。令和2年4月に武蔵野市役所に入庁いたしました、増渕有紀と申します。現在、高齢者支援課という部署で、高齢者に介護サービスを提供する事業者を支援する仕事を担当しています。社会人となった今も、行政研究所で公務員試験合格に向けて仲間と切磋琢磨した日々をふと思い出して懐かしく感じたり、お世話になった方々の顔が浮かび感謝の気持ちで胸がいっぱいになったりします。行研でもたくさん勉強をしましたが、現在も仕事を通じて学ぶことばかりの毎日です。一步一步前進していき、培った経験や知識を社会に還元できるよう、今後も努力していきたいです。



さて、行研のパンフレットを手にとった皆さんは、「公務員」という仕事に関心をお持ちのことと思います。私も、明治大学に入学直後であった一年生のある日、この資料を手に取り、公務員という職種と行研という環境の魅力に惹かれ、入室を決意しました。私は当初より地方公務員を志望していましたが、行研には国家公務員を目指す人もたくさん在籍しています。目指す職種は異なれども、行研は、目標達成に向けた個々の熱いエネルギーが集い、同じ志を持つ仲間と互いに高め合うことのできる最高の場所であると思います。

大学生生活の4年間に、これから社会に出て自分の力で生きていくにあたり、自分がどのような環境に身を置き、何を実現していきたいか、そして、そのために学生である今、何をすべきかを何度も模索して頂けたらと思います。私は、在学中に経験したボランティア活動やインターンシップ、アルバイト等から、「仕事を通して、人の生活の基盤を支えたい」という思いができました。それを実現するために「公務員」という職種を本格的に目指し、実現するためのツールとして「行研」という環境を選択しました。

大学3年次から、公務員試験に向けた勉強は本格化します。それから筆記試験、面接試験と、公務員を目指す道のりは約一年半と本当に長く、不安との闘いでもありました。しかし、行研という共に苦楽を分かち合い、励まし合える環境が、当時の自分を後押ししてくれたかな、と感じます。

行研は「公務員」を目指すうえで最適な環境であるように感じます。しかし、最終的に公務員以外の職種を目指すこととなった場合や、もちろん社会人となってからも、そこで得た知識や物事の考え方は、必ず活きるのではないかと思います。

たとえ今、明確な目標がわからないとしても、何気なくチャレンジした経験が自分の世界を大きく広げてくれるかもしれません。まずは勇気を持って一步、踏み出して頂けたらと思います。そして、苦しい局面も、落ち着いて、自分を信じて、時には周りの人の助けを借りながら、乗り越えてみてください。

皆さんが自分の道を見つけ、後悔なく就職活動を終え、笑顔いっぱいの人生を歩まれることをOGとして応援しています。

井俣 早瑛 Sae Imata

人事院(総合職採用)

(61期・2021年3月 法学部法律学科卒業)

## “人”に恵まれた環境

はじめまして。春から国家公務員総合職として人事院で働くことになりました、法学部法律学科の井俣早瑛と申します。聞き馴染みのない方もいらっしゃると思いますが、人事院は国家公務員の人事管理を行う省庁です。そして国家公務員総合職は、国家公務員のうち、主に政策の企画立案という責任ある仕事を行う役職です。私は高校生の時から国家公務員を目指していましたが、以来努力してきた結果が実ったことを嬉しく思うとともに、このような結果を得られたのは行政研究所の多大なご支援・ご指導のおかげであると感じています。



特に、本年度は新型コロナウイルス流行を受け、大学施設の使用制限を始め、試験日程の延期、試験方法の変更などのイレギュラーに見舞われました。先行きの見通せない不安感が募る中、行政研究所はオンライン授業や自習室の予約制導入などの対応を取り、臨機応変に絶え間ない支援をしてくださりました。また、同志である行政研究所の同期と悩みを共有したり互いを奮起しあったりしたことは、精神的な支えになりました。行政研究所の強みの一つには、このように、“人”に恵まれている点が挙げられると思います。公務員試験のプロである優秀な先生方を始め、快適な環境を整えてくださる事務員の方々、目標に向けて共に奮励する同期、加えて自身の経験をもとにアドバイスを下さるOBOGの存在は、就職活動を進める上で大きなアドバンテージとなります。

さて、私は大学一年生の時に行政研究所に入室しましたが、一、二年生のときはアルバイトに勤しみ、趣味である旅行や様々な文化体験に時間を費やしていました。本腰を入れて勉強をするようになったのは三年生以降で、ライバルでもある同期たちと仲を深めながら、試験に向けて力をつけていきました。OBOGの方にも実際のお仕事のお話を伺ったり、直接面接対策をしていただいたりしました。今振り返ってみても、本当に多くの人にお力添え頂いたことが結果に繋がったと感じています。

今、ここまで読んでくださっているということは、多少なりとも公務員にご関心がある方なのだと思います。少しでも公務員にご興味があるのなら、私は行政研究所への入室をおすすめします。民間企業と違って、公務員の就職活動には公務員試験という壁があり、その対策に多大な時間と努力を要求されます。一、二年生の時期は、就職活動をあまり意識していない人の方が多数派だとは思いますが、将来に向けてアクションを起こすのに決して早すぎることはありません。自分が何をしたいのかは、じっくり時間をかけて見定めるべきです。その点、後々の選択肢を狭めないという意味で、行政研究所入室はとて有意義なものだと思います。

最後にはなりますが、皆さんが自分の進む道を見つけ、納得のいく結果を得られることを願っています。私も行政研究所OGとして微力ながらその手助けができたなら、と思っています。行政研究所の一員となった皆さんとお会いできるその日を、楽しみにしています。

# OB・OGからのメッセージ

丸岡 龍平 *Ryuhei Maruoka*

防衛省(国家一般職本省採用)

(61期・2021年3月 政治経済学部政治学科卒業)

## 志高い仲間と切磋琢磨できる場所

はじめまして。政治経済学部政治学科4年の丸岡龍平と申します。春から防衛省に就職することが決定しました。先生やOB・OG、事務室の方々によるご支援を受けつつ、「公務員になる」という同じ志を持った仲間と共に切磋琢磨したからこそ成し遂げられたと感じています。

ところで、「夢」と「志」の違いは何でしょうか。ソフトバンクグループ社長の孫正義氏は「夢は漠然とした個人の願望であり、志は個人個人の願望を超えて多くの人々の夢を叶えようとする気概です。夢はこころよい願望ですが、志は厳しい未来への挑戦です。夢を持つなんて程度で終わらずに志を高く持たないとイケない。」と言っています。民間企業と比べて、給与面からしたら決して恵まれているとは言えない公務員になるということは、ただの「夢」で終わるものではないと思います。私益を求めず、国家や自治体、国民のために働く公務員になることは、まさに「志」を実現させる一つの手段となるでしょう。

行研というと、ずっと勉強詰めというイメージがあるかもしれませんが。事実、大学3年からはそうでした。しかし、大学1年次に入室して最初の2年間は、授業自体はあるものの、勉強一辺倒という訳ではありませんでした。自分がどういう人間であるか、どういう強みを持っているのか、そういった自己探求の時期でした。そのために、行研生は行研と並行して様々な活動をしています。体育会やサークルを頑張ったり、アルバイトに勤しんだり、留学したりと、多種多様な経験を積んでいます。この経験を、4年次の面接対策に活かすことができました。

3年に上がると、まさに勉強一色となりました。平日は毎日授業があり、長期休暇は自習室に籠って勉強する。さらに大学の講義も受けなければならない。これが公務員試験の終了した4年の9月頃まで続きました。やらなければならないことが多く、しんどい毎日を過ごしていました。しかし、授業を受ける時や自習をする時には、いつも友人がおり、辛くなった時はお互いに励まし合いながら、時には競い合いながら、日々を過ごしていました。OB・OGの方々も行研を訪問して下さり、実際の官庁の雰囲気や勉強・面接のアドバイスを、相談にも乗ってくださいます。

私が公務員試験を受けた時期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、試験日程が何度も延びました。行研が閉鎖され、先行きが不透明な中でも、オンラインで先生方や友人と連絡を取り合い、気持ちを切らさないようにしていました。公務員試験は長期戦です。自分が最初に感じた「志」というものを保ち、より強くしてくれるのが行研という存在です。

ここまで読んでくださり、誠にありがとうございました。パンフレットや説明会を通じて行研に興味を持ち、1人でも多く自分の志を叶えることができるよう、OBの1人として応援しています。



門倉 武志 *Takeshi Kadokura*

東京都庁

(61期・2021年3月 法学部法律学科卒業)

## 行政研究所とは

はじめまして、法学部法律学科4年の門倉武志と申します。春から都庁に就職することに決めました。公務員を目指すきっかけともなった行政研究所に4年間在籍し、合格を勝ち取れたことは何よりもうれしいです。これも、行研での先生方、先輩方、事務の方々の協力があり初めて成し遂げられたことだと思います。

そもそも、私が公務員を目指そうと思ったきっかけは、友達に誘われ行政研究所の説明会に行き公務員というものに興味を持ったことがきっかけです。将来のことを漠然としか考えていなかったときに、公務員を一つの選択肢として考えるようになりました。その後、行政研究所に所属し、実際にやりがいをもって働いているOBOGの方々の話を聞いて公務員を目指していく決意をしました。このガイドブックを見ている方の中には、まだ将来のことを漠然としか考えていない方もいると思います(自分もそうでした)。そんな方々も、公務員というものに少しでも興味があるのであれば、行政研究所を選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

私は行政研究所に入って、公務員を目指せてよかったと思います。それは以下の理由からです。①良い仲間を得て大学生活を過ごせたこと。②先生方に恵まれていること。以下それぞれ説明します。

個人的には①がこのコロナ禍において、大変重要だったと思います。行政研究所に入室する人たちは、ある程度自分の考えを持っていて、目標に向かって努力する人が多いと思います。そうした仲間たちに囲まれて勉強や面接対策をすることによって、勉強面では自分の進み具合を把握でき、モチベーションを維持することや、自分があまりやってなかった分野の発見等をすることができました。また、面接面では、現状よりもっと良い伝え方を学べ、アドバイスをもらうことで、より良い方向に進んで行けたと思います。

②行研の先生方は本当に分かりやすく教えてくださいました。親身に相談に乗ってくださいます。そうした、頼りになる先生方の指導を受けられるのもメリットだと思います。このほかにも、たくさんのOBOGの方々に実際の職務のお話等を聞けることも行研に入ってよかったと思う点です。

最後に皆さんに向けてのアドバイスです。勉強方法は人それぞれあると思いますのでここでは書きません。周りの友人や先輩の勉強方法で、自分に合っているかもと思った方法を取り入れるぐらいで大丈夫だと思います。勉強内容についても、1、2年生の内は行研の授業に出席するぐらいで大丈夫だと思います。それ以上に、何かに積極的に取り組む経験を積むことが大事だと思います。ゼミでもバイトでもサークルでも趣味でも構いません。3年生になったら嫌でも勉強しますし、期間もそれで充分足りると思います。

コロナ禍の中、例年と違う状況となっていますが、公務員試験は努力した分だけ報われやすい試験だと思いますので是非頑張ってください。



# 国家試験指導センター 行政研究所

HP [https://www.meiji.ac.jp/netsc/admin\\_lab/index.html](https://www.meiji.ac.jp/netsc/admin_lab/index.html)

## 駿河台本室

TEL.03-3296-4420

〒101-0064

東京都千代田区神田猿楽町2-4-1

明治大学猿楽町第一校舎1階

E-mail : [gyoken@cmm.meiji.ac.jp](mailto:gyoken@cmm.meiji.ac.jp)

### 【開室時間】

平日 9:30~18:00

土曜日 9:30~13:00



## 和泉分室

TEL.03-5300-1448

〒168-8555

東京都杉並区永福1-9-1

和泉リエゾン棟2階

E-mail : [izgyosei@cmm.meiji.ac.jp](mailto:izgyosei@cmm.meiji.ac.jp)

### 【開室時間】

平日 10:00~18:00

(土曜日 閉室)

